

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立天満中学校協議会

1 総括についての評価

今年度は、天満中学校創立30周年であり、大阪・関西万博の開催年ということもあり、卒業生による講演会や大阪・関西万博への校外学習、万博国際交流プログラムを通じてのガーナ共和国への派遣事業など、行事が盛り沢山の一年だった。DIG訓練、万博への校外学習、体育大会では、縦割り班での活動を取り入れ、学年を越えた関係づくりの中で、コミュニケーションスキルを磨いた。ガーナ派遣事業では、異文化や多様性を体感し、世界の課題を自分事として捉え、国際理解や行動の変化につながる契機となった。

学力面では、全ての調査で、平均正答率が大阪市、大阪府、全国の平均を上回っており大きな成果があったといえる。日々の授業においては生徒が学習者用端末を用い授業を行い、各教科で主体的・対話的で深い学びを目指した授業作りに取り組むことができた。11月には教員と生徒の双方向通信を行ったオンライン授業をすることができ、新たな学びの形を構築することができた。また、授業研修週間を3期設け、教員相互が語り合う協働的な研修も行うことができた。

「誰一人取り残さない教育活動の推進」に向け、本校の課題である不登校生徒支援については、子どもの居場所づくりとして「SCHOOL”0”」も2年目となり、昨年度よりもさらに発展した活動となった。教室に入りにくい生徒だけでなく、学校に来にくい生徒へのサポートも「さくらクラス」や「中崎クラス」など校外の施設を活用し、地域の方々のご協力や区役所の支援もあり、一年間を通して運営することができた。

テスト前土曜学習会や3年生ブラッシュアップ学習会では、地域コーディネーターや学習ボランティアの方々にも協力していただき、生徒が自主学習をすることができる環境を整えることができた。

「安心・安全な教育の推進」では、生徒の現状把握をするために学習者用端末の「相談機能」の利用や、「心の天気」の入力も行うことができた。また、少しでも多く生徒の変化を知るために、「1週間を振り返って」を毎週定期的に行うことができ、各学期の中に教育相談期間を取り入れることもでき生徒の現状把握に努めることができた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標、学校園の年度目標にあげた指標に、年度末アンケート結果において、近づいてきている。いじめ防止対策としては、「いじめ対策マニュアル」に基づき学習者用端末を活用した定期的な状況把握が継続でき、94.1%の生徒が「いじめや暴力などのトラブルには、時には先生なども交えながら、問題の解決を図っている」と回答した。

不登校支援では、校内の「結びルーム」、校外の「さくらclass」・「中崎class」を利用し、不登校生徒に安心できる場所を提供し、定着しつつある生徒が増加している。

生活指導では、生徒主体のあいさつ運動等により規律意識が高まり、98.6%の生徒がルールを意識している。

道徳・人権教育では、全教員による授業実施で命の尊重や思いやりの心を育てているが、生徒の肯定的回答は94.8%で目標には達成しなかった。防災教育ではDIG訓練等を実施し、93.1%の生徒が「適切に行動できる」と回答した。

各取組で成果が見られる一方、形式的な理解にとどまらず、体験的・継続的な取組への深化が今後の課題である。

年度目標：【**未来を切り拓く学力・体力の向上**】

学校では、生徒の自学自習をする習慣化をつくるため、コミュニティースクール主催のテスト前土曜学習会を開催するとともに、定期的に図書館の開館を行い学習できる場所の提供も行っている。話し合い活動では、「自分の考えを深めたり広げたりできている」の項目で「とても思う」と答えた生徒が44.3%と昨年度よりも高く、対話型授業や振り返りを重視した主体的・対話的・深い学びの成果が見えてきている。

全国学力・学習状況調査では、全教科で全国・大阪府平均を上回り、基礎学力の定着が進んだ。また、3年生大阪府チャレンジテストにおいても、五教科ともに大阪府平均を上回る成果が見られた。「宿題以外にも家庭学習をしている」と答えた生徒は73.2%と高くなり、主的な学びの習慣づけも改善されてきている。

令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査等では、体力合計点が男女とも全国・大阪市の平均値を上回ることができた。

年度目標：【**学びを支える教育環境の充実**】

ICTの活用が着実に進展し、学校内のネットワーク環境の改善も進み、授業や家庭学習における学習者用端末使用率が向上した。生徒アンケートでは「授業や家庭で端末を使用している」との肯定回答が91%となり、目標の80%を上回った。また、授業のわかりやすさに関する肯定回答も92.6%と高水準を維持している。

昨年度から引き続き、スクールサポートスタッフの方が、校務の補助をいただいているお陰で、教職員の大きな負担軽減につながっている。また、学習サポーターや特別支援サポーターのサポート体制も整えることができ、様々な場面で生徒や教員のサポートをいただいている。土曜学習会を通じて「自ら学習する姿勢が持てるようになった」との回答は89.9%に達し、生徒の主体的な学びの姿勢も育まれている。

読書習慣の定着については、65.9%にとどまり、これからも活動内容の工夫が必要である。

3 今後の学校園の運営についての意見

学校・家庭・地域が連携し学習環境の整備を進め、生徒が安心・安全な状況で学校生活を送ることができるよう取組み、生徒は、一定落ち着いた学校生活を送ることができている。

これらの状況を良い状態で維持し、学校・家庭・地域はもとより、関係諸機関や各支援団体とも連携を密にし、生徒の変化に迅速に対応し、問題解決ができるようさらに体制の構築を進め、『自分らしさ』を大切にし、多様性を尊重できる生徒・「自ら考え、明日への一歩を踏み出せる生徒」の育成に重点を置き、現在の取組みを一層深化・充実させていただきたい。